

吹奏楽部員との協演で、寄贈したピアノを演奏する宮谷さん  
 東高校体育館



## 東高校で記念コンサート

学校法人金沢学院に金沢市出身のピアノニスト宮谷理香さんからグラランドピアノが寄贈され、六月二十七日の東高校文化祭で、本人を招いて記念のコンサートが開かれました。吹奏楽部員も協演し、見事な演奏を披露しました。

**宮谷理香さん**  
**愛用のピアノ**  
**本学へ寄贈**

「深みのある音色」  
 宮谷さんはコンサートの後、金沢学院大学・短期大学を見学し、2号館に展示されている「ステッセルのピアノ」を演奏しました。宮谷さんは、歴史を感じさせる深みのある音色」と話しました。



ステッセルのピアノを演奏する宮谷さん = 2号館

寄贈されたのは、宮谷さんが十三年前にシヨパン国際ピアノコンクールで五位入賞を果たした際に練習を積んだ思い出多いピアノです。  
 コンサートでは、吹奏楽部が「ダンシングクワイーン」千の風になっての二曲を宮谷さんの伴奏に合わせて披露し、大きな拍手を浴びました。  
 宮谷さんは「トルコ行進曲」を皮切りにシヨパンやリストの曲を優しく、あるいは力強く演奏し、生徒を魅了しました。

金沢学院大学文学部の公開講座「石川の現代文学、その魅力をさぐる」は七月六日、金沢市の県立生涯学習センターで行われました。  
 柳澤良一、秋山稔、水洞幸夫、部際子、寺田達也、寺田智美の六教員が昨年出版された「ほくりく文学紀行」で担当した作品について取材の裏話も交えて話しました。  
 金沢が舞台となる小説が多いことについて「普遍的な価値、魅力が作家の心をとらえる」「宗教的

### 文学部公開講座

「ほくりく文学紀行」こぼれ話

## 金沢に普遍的な魅力

情念を作家が共通に感じるのでないか」「装丁の面白さや工夫に目をやるのも小説を味わう妙である」などと解説しました。



文学部の公開講座 = 生涯学習センター

小学英語は明治から  
 文学部特別講義  
 金沢学院大学文学部の特別講義「日本人は英語をどう学んできたか」は七月四日、4号館講堂で

行われました。写真上、和歌山大学教授の江利川春雄氏が、明治時代に始まり、当時から是非論があつた小学校での英語教育の歴史、受験英語と教科書の変遷、新語数の多少から見た諸外国の英語教育の特徴などについて解説しました。学生たちは江利川教授の分かりやすく軽妙な授業を聞き、英語教育の魅力を再認識したようでした。

英語教科書から見えてくるもの、ポロワム族の英語教育に注目している。中国内モンゴル自治区出身のゴイハンさんが母語に基づき言語教育の重要性を説きました。  
 14日に五輪壮行会  
 八月の北京五輪に本学から出場する新谷義人、齋藤里香(以上ウエイトリフティング)、中川真依(水泳高飛び込み)の三選手の壮行会は七月十四日午後六時半から、ホテル日航金沢で開かれます。



「アジア英語」学会  
 日本「アジア英語」学会の第二十三回全国大会は七月五日、金沢学院大学3号館で開かれました。「アジアの英語教育と英語教科書」の統一テーマに沿って、特別講演「日本の英語教科書に見られるアジア」南・東南アジアの表、